

《 単元の指導計画 》 全7時間+1学期からの調べ学習

【授業単元名】社会公民：市場経済と金融

【目標】東日本大震災復興プランを作ろう

○新聞を活用することで「新鮮で生きた情報」による東日本大震災復興プランの策定をめざす。

○東日本大震災復興プランの策定に向けて、政府・企業・銀行の視点から多面的・多角的に考える。

○銀行の業務や役割については金融経済教育教材を活用し、具体的に理解を深めていく。

次	学習活動・内容	課題意識を連続させる工夫（◎） および指導上の留意点	評価基準	配時
調べ 学習	◆東日本大震災に関する資料を新聞から収集する。 ◆追求課題を提示する	○資料収集のキーワードを提示する。 ◎スクラップブックに見出しをつけさせる	◆東日本大震災についての新聞記事を意欲的に集めようとする。	1学期 ～夏休み～2 学期
	被災地が復興するためにはどのような取り組みが必要だろうか			
第一 次	◆東日本大震災の被害の実態を知る 講師派遣授業	○新聞記者から、取材した際の被災地の実態を聞き、新聞などの情報だけでは理解が深まらなかった被災地の現実を知る。 ○疑問に思ったことは、講師に質問などして解決していく。	◆不明な点については質問を通して解決できたか。	1
第二 次	◆銀行の役割を理解する 講師派遣授業	○経済活動の中での銀行の役割や業務を理解する。 ○疑問に思ったことは、講師に質問などをして解決をしていく。	◆経済活動の中における銀行の役割を理解できたか。	1
第三 四 五 次	◆東日本大震災復興プランを策定する 政府・企業・銀行の3つの視点から震災復興プランの策定を行う	◎それぞれの視点から見たいいくつかの事例を提示する。 ○それぞれの視点から見た東日本大震災復興プランを整理し共有化させる。	◆震災復興プランについて政府・企業・銀行の視点で調査することができる。	3
第六 次	◆中学生会議 各視点からの復興プランを発表する	◎東日本大震災復興プランの発表は、テレビモニターを使用し、資料を提示して発表させる。 ◎グループを形成し、総合的な復興プランにおけるポイントを整理する。	◆東日本大震災の被害を分析し、資料をもとに復興プランを発表することができる。	1
第七 次	◆個人レポート作成 東日本大震災復興プランを完成させる	○グループで検討した内容を反映しながら、個人のレポートを作成する。	◆それぞれの視点から、復興プランを策定することができる。	1

【 授業単元名 】 中学校3年 公民科 : 市場経済(金融)/消費生活

【 目 標 】

○震災復興プランの策定では、「政府」「企業」「銀行」の各立場やその役割から、どのようにして震災からの復興を支援していくことができるのかを検討してきた。

○今回は、賢い消費者として自分自身の生活設計を検討する際の、人生全体を通したお金の収支バランスについて、体験して理解できるようにしたい。

【 単元計画 】 総時間：4時間

次	学習活動・内容	課題意識を連続させる工夫(◎) および指導上の留意点	評価基準	配時
第一 次	◆銀行の役割を理解する 講師派遣授業	○経済活動の中で銀行の役割や業務を理解する。 ○疑問に思ったことは、講師に質問をして解決していく。 ◎震災復興プランと並行して、自身が銀行とどのように向き合うかについても考えられるようにしたい。	◆不明な点については質問をとおして解決できたか ◆経済活動の中における銀行の役割を理解できたか	1
第二 次	◆賢い消費者として、ローンの有用性を理解し、正しく活用できるようになる *クレジットについては、教科書授業で学んだため、今回はローンに絞って学ぶ	○生活の中で、ローンを組む場面を想定し、「お金を借りる」というのは、どのようなことなのかを理解する。 ○ローンのメリット・デメリットを理解する。	◆「ローン」のメリット・デメリットを理解したうえで、どのように活用していけばよいのかを考えることができる。 ◆収入と支出のバランスの中で、ローンをどのように位置づけて活用すればよいか理解できたか	1
第三 次	◆生活設計・マネープランゲーム	○賢い消費者として、銀行の仕組みを理解し、ローンの上手な利用方法を活かしながら生活設計を展開する。 ◎人生の中で「借りる」「ためる」「使う」のバランスについて考える。	◆前時までの授業で理解した内容を活かしながら、収支バランスを取り、満足のいく生活設計ができたか	1
第四 次	◆授業のまとめ	○ゲーム結果などを振り返りながら、「人生」と「お金」の関係について理解を深める。 ◎銀行の業務や役割を理解したうえで、震災復興プランを考える ◎銀行を利用する個人の立場として賢い消費者になるにはどうしたらよいかを考える	◆賢い消費者として、それぞれが「お金」との関わり方について、実生活に反映できる知識・技能を身につけることができたか	1

◆1 時間目

「賢い消費者になろう」 :

ローンの特性と仕組みを理解して、バランスのよい収支計画を考えることができる

(思考・判断)

学 習 活 動	・ 指導上の留意点 ◆評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 銀行の役割について復習 自分が持っている「お金」と「銀行」の関わりについて考える 	<ul style="list-style-type: none"> ◆講師派遣授業内容を振り返り、銀行の業務・役割について思い出す。 「預金」「貸出」「為替」業務があったこと、震災復興プランでは「貸出」に着目して取りくんだこと
<p>「かしこい消費者」になるために、「お金」をどのように使っていくのかを考えてみよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人生の中での「大きな買い物」を考える ・ なぜ「家」はローンを組んで購入するのか ・ 借入れ金額（頭金）の違いで、支払総額、月の支払額が変わることを知る ・ 決まった収入の中で、どこにどれだけお金を使うのかを考える ★ 選択が必要 ・ 班活動 ローンを組む際に気をつけるべきことについて考え、発表する ・ 本時の授業のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ローンを組まないと購入できない物に気付かせる 例) 家、車、事業を起こす、結婚式（披露宴）・新婚旅行など ◆三択問題に答えていく中で、現金一括で家を購入しようとするとも20年以上もかかってしまい、人生設計がままならないことに気付くことができる ◆頭金の違いで支払総額、月の支払額が変わる → 毎月決まった収入の中で、どこにどれだけお金を使うのかを考える必要がある ・ P6 消費支出項目とその金額について確認 ◆「非消費支出」とは何を指すか覚えている ・ 4人×9班に分かれ、ローンを組む際に気をつけるべき点を考えホワイトボードに記入 → 発表 <ul style="list-style-type: none"> ● 毎月支払えるのか考えて、計画的に借りる ● 自分の将来の収入を考えて借りる ● しっかりと計画を立てる ● 借りすぎない、利子がどれだけつくのか考える ● 収入と消費支出を考える ● 利子の安い銀行を選ぶ ● 職を失わないようにする ◆実生活の中では、お金を借りる場面が必ず出てくることから、借りるメリット、返すための計画について一人一人が気付き、考えて意見・感想をまとめることができる。

◆2 時間目

「経済的視点から生活設計を考える」 :

生活設計マネープランゲームを使って、お金の使い方を考える。(思考・判断・発表)

学 習 活 動	・ 指導上の留意点 ◆評価
<ul style="list-style-type: none"> ・「賢い消費者になるために」の授業の中で学んだことを活かして、今日は経済的な視点からお金の使い方について考えていくことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに学んだ知識を活かして、選択と判断を行い、賢い消費者としての視点から、生活設計できるようにしたい。
<p>生活設計をしながら、お金との関わり方を経済的視点から考えてみよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 人 1 班 9 班で活動を行う →収入の概算をイメージできるようにランダムにキャリアカードを配布 ・ 20 歳代の生活設計 収入/支出(生活費・住居費)/思い出 ・ 30 歳代の生活設計 住居/結婚/子供/車 選択と判断 イベント&アクシデントカードで不測の事態が起こることも理解(保険の活用)、思い出の確認 ・ 40 歳代の生活設計 住居/車 選択と判断 イベント&アクシデントカードで不測の事態が起こることも理解(保険の活用)、思い出の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ◆配布されたキャリアカードから、ある程度現実に即した収入や支出を考えることができる。 ・ 収入、支出、思い出ポイントについて、話し合いや計算を進めながら、ゲームの進め方を理解する。 ◆前時の授業でも理解を深めた「何にどれだけのお金を使うのか」、「収入だけで足りない場合、諦めるのかそれともお金を借りるのか」という選択と判断を行うことができる。 ◆家、車をローンで購入する際には、頭金、今後の支払についても考えたうえで選択することができる。 ◆保険の役割についても理解する(メリットとデメリット) ・ 30 歳代で住居や車の購入ができなかった班については、40 歳代で再度購入をするかどうか検討させる。 結婚と子どもについては、今回は 30 歳代で決定した内容で、以降は変更がないものとする。 ◆お金を使う(借りる)ことで得られるもの、家族がいることで楽しめることなどを体験しながら、現実に即した形でよりよい生活設計ができる。

◆3 時間目

「消費生活のまとめ」 :

賢い消費者になるために、今までに学んだ授業内容を振り返り、経済に関する授業を自身の生活を基盤に考えられるようにする。(思考・判断・発表)

学 習 活 動	・ 指導上の留意点 ◆評価
生活設計・マネープランゲーム まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時のゲーム結果を振り返り、各班で感想をまとめる。 ・ 各班発表 	<p>◆40 歳代までの人生を各班で振り返り、生活設計の中で分かったこと、感じたことを端的にまとめ、発表することができる。</p>
消費生活・賢い消費者のまとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活をしていくためには、お金が必要で、収入に見合ったお金の使い方を考えていかないといけない。 「消費支出」の何にどれだけ使うのか、時には、お金を借りる、欲しいものを1つ諦めるなど選択と判断が必要なことを、今までの授業を通して理解することができる。 	<p>◆人生の中でお金との関わり方は「使う」「貯める」「借りる」。 人生の場面と状況に応じて、経済的な視点から、選択と判断をしていく必要があることを理解する。</p>